

“みやまえ取り組み隊”の

活動の手助けになるかも?!

アイデア集

場所のシェアや、活用の工夫

●地域に活用される開かれた場

●地域とつながれる開かれた場所があると良い

- ◆気軽に来られる、地域に開放した広場空間になると良い（鷺沼ふれあい広場）
- ◆駅前の立地を活かし、人のつながりから活動を活性化する「しかけ」があると良い（ここわサロン）
- ◆地域の人にさらに利用してもらいながら、近所のつながりづくりができる「しかけ」があると良い（フレンド神木地域包括支援センター）

●施設や空間を最大限に活かした、地域に活用される場になると良い

- ◆保育園とさらに連携し、保育機能も充実すると良い（地域子育て支援センターさぎぬま）
- ◆鷺沼の再開発と一緒に考えることが大切（地域子育て支援センターさぎぬま）
- ◆アリーノの図書室が埋まるそうなので、空いている部屋を自習室として、さらに活用を広める「しくみ」があると良い（アリーノ）
- ◆北部市場をさらに親しみやすくするために、業者と一般客を空間的または時間的に分けるなど、お互いにメリットとなる「しくみ」があると良い（北部市場）
- ◆今後の北部市場のあり方を見据えて、市場の地位向上につながる活動を行えると良い（北部市場）
- ◆市民館に加えて、区役所のロビーやピアノを使えると良い（Café みやまえ）

●多様な使い方ができる場

●本来の目的とは違う空間の新たな活用ができると良い

- ◆施設の特徴や魅力の発信を充実させ、より幅広く活用できると良い（鷺沼ふれあい広場）
- ◆土日や夜間利用など、多様な使い方ができる「しくみ」があると良い（地域子育て支援センターさぎぬま）
- ◆スキルのある人とつながれる講座などに活用できると良い（地域子育て支援センターさぎぬま）
- ◆ふれあい広場を屋外のイベント等に活用できると良い（鷺沼ふれあい広場）
- ◆コミュニケーションプラザの空間を多目的に利用できる「しくみ」があると良い（NEXCO 中日本）
- ◆谷戸の下のスペースを貸して、団体同士が交流できる場になると良い（ささらプロダクション）

● **普段、活動していない場所で活動できると良い**

- ◆活動場所がもっとあると良い（ひとりぐらし老人会食会）
- ◆子どもに人気のバルーンアートは他の場所でも実施できるように、場所・人・つながりを共有する「しくみ」があると良い（CAFÉバルーン）
- ◆ささらプロダクションの映画をさらに知ってもらうため、パブリックスペースや学校などで上映し、歴史やまちづくりについて考える「しかけ」ができると良い（ささらプロダクション）
- ◆資金的な支援も受けながら、北高以外の高校や中学校でも食育教育を提供できるようになると良い（北高食育活動）

人やノウハウをつなぐ

● **参加の輪をさらに広げる**

● **普段参加しない人や参加しづらい人も参加できる「しかけ」を工夫できると良い**

- ◆一人暮らしの男性も会食会に参加しやすくするため、興味を引く趣味や困りごとに関連した「しかけ」があると良い（ひとりぐらし老人会食会）
- ◆桃花サロンで、シニアの学びにつながるセミナー等を開催できると良い（宮前平地域包括センター）
- ◆市民団体などとコラボして、外国人など普段利用しない人たちを引き込む「しかけ」と周知ができると良い（北部市場）
- ◆まずはバルーンアートに参加してみることが大切（CAFÉバルーン）
- ◆海外旅行者にもアピールできると良い（NEXCO 中日本）

● **子ども、若い人、高齢者が一緒に参加して交流できる「しかけ」があると良い**

- ◆若い人もサロンに参加できる「しかけ」があると良い（長尾住宅いきいきサロン）
- ◆子ども・孫世代との関わりを増やす（長尾住宅いきいきサロン）
- ◆高齢者に限らず子どもや若い人が会食会で交流できる「しかけ」があると良い（ひとりぐらし老人会食会）
- ◆こども食堂に、地域の高齢者や大人も気軽に参加でき、地域で子育てをサポートする「しくみ」になると良い
- ◆高齢者も公園を利用したり、公園で子どもと触れ合う機会があると良い（有馬ふるさと公園の活動）
- ◆こども文化センターの子どもと、老人いこいの家のお年寄りが一緒に活動できる機会がもっと増えると良い（有馬こども文化センター）
- ◆ぶんぶんごまなどの手づくりおもちゃを子どもに教えられると良い（有馬こども文化センター）

●他分野の活動を掛け合わせた新たなつながりや相乗効果を生む「しかけ」があると良い

- ◆土曜ストアの前にカフェスペースなど、買い物しながらくつろげる「しかけ」があると良い（高山土曜ストア）
- ◆買い物しながら楽しいイベントに参加できる「しかけ」があると良い（高山土曜ストア）
- ◆こども食堂で、子どもと高齢者の交流を後押しするために、食事+αの「しかけ」があると良い（アリーノこども食堂）
- ◆NEXCO 中日本コミュニケーションプラザについて、区民にもっと知ってもらうため、区民限定の日や、マルシェなど分野外のテーマともかけ合わせて訪問するきっかけをつくる「しかけ」があると良い（NEXCO 中日本）

●地域の人や活動とつなぐ

●地域の活動とのつながりを深め、活動を広げられると良い

- ◆語り継ぐ会の資料や知識を、読み聞かせなどの地域の活動に落とし込む「しくみ」があると良い（みやまえ・東部 62 部隊を語り継ぐ会）
- ◆公園体操、地域ケア会議、防災訓練などを通じて、となり近所との関係づくりを支え、人をつなぐ「しかけ」が必要（宮前平地域包括センター）
- ◆アリーノこども食堂の参加者を増やすために、地域への PR も大切（アリーノこども食堂）

●地域の知恵や資源を共有し、活かせる「しくみ」があると良い

- ◆地域の人の知恵やネットワーク等の人的資源を活用するために共有する「しくみ」が必要（宮前平地域包括センター）

●地域と一緒にまちの魅力づくりができる则良い

- ◆北部市場周辺地域の魅力が市場の豊かさにつながる（北部市場）

●多様なアクターとの連携を支える

●似たような取組をしている他の活動との横のつながりを強められると良い

- ◆他の農家さんや活動と連携して、宮前区の様々な場所で直売できる機会が増えると良い（矢澤水耕農園）
- ◆他の活動と連携協力できると良い（みやざきだいこども食堂）
- ◆あいさつ運動をして「公園で元気になろう」のコンセプトを実現したい（有馬ふるさと公園の活動）
- ◆区内の様々なコミュニティカフェ同士がつながるともっとおもしろい（Café みやまえ）
- ◆センター内の他の活動と会食会を組み合わせられると良い（ひとりぐらし老人会食会）

●民間企業と連携して、新たに活動の幅を広げられると良い

- ◆民間施設（フロンタウン）の魅力も活用して、まちの活性化につながると良い（鷺沼ふれあい広場）
- ◆食品会社等の企業と連携して、食育講座を企業でも活動を展開できると良い（北高食育活動）
- ◆食材の流通の手助けができると良い（みやざきだいこども食堂）
- ◆連携する企業を増やして、こども食堂への食材の提供ルートを多様化できると良い（アリーノこども食堂）

●行政や公共的な取組みと連携して、地域との関係づくりや対象者の幅を広げたい

- ◆市民館・図書館と連携して、子どもに東部 62 部隊の歴史を伝えられると良い（みやまえ・東部 62 部隊を語り継ぐ会）
- ◆行政と連携して「映像のまち・かわさき」を一緒に盛り上げる（ささらプロダクション）
- ◆小学校との連携、児童相談所と連携して、こども文化センターの活動をさらに広げられると良い（有馬こども文化センター）
- ◆保育園とも連携して、地域との関係づくりをサポートできると良い（宮前平地域包括センター）
- ◆青少年の家と連携して、現場を見てもらう「しかけ」をつくる（みやまえ・東部 62 部隊を語り継ぐ会）

●ノウハウやスキルをシェアする

●さまざまな活動から、互いに学び合える「しくみ」や「しかけ」があると良い

- ◆多団体で意見交換ができると良い（有馬ふるさと公園の活動）
- ◆これまで蓄積されたサロンのネタ等の情報やノウハウを共有する「しくみ」があると良い（長尾住宅いきいきサロン）
- ◆他の分野の活動からも、広報や運営について学び合える「しかけ」があると良い（フレンド神木地域包括支援センター）
- ◆講演など、まちかどでの取組について広く発信し学び合える「しかけ」があると良い（まちかどシェア）
- ◆他の団体や活動の「ノウハウ」も、サロンのイベント等で活用できると良い（ここわサロン）
- ◆町会活動に参加する人を広めるために、他地域の成功事例を共有する場を設ける（有馬町会）
- ◆ロビーカフェは他の講座にも転用できるので、「ノウハウ」を共有できると良い（Café みやまえ）
- ◆様々な団体の「一日体験」ができると良い（アリーノ）

●企画、資金獲得、運営などのスキルや知識を共有する「しくみ」があると良い

- ◆助成金の申請書類作成の「ノウハウ」が加わると、運営の負担が軽減される（ここわサロン）
- ◆活動の目標の実現するために必要な企画や資金獲得等のスキルを持っている人とつながれると良い（みやまえ農の応援隊）
- ◆他の農家さんと作業や機材をシェアする「しくみ」があると良い（はぐるま稗原農園）

●取り組みを手法化できると良い

- ◆はぐるま稗原農園の農法などをブランド化して、区内にのれん分けできる「しくみ」があると良い（はぐるま稗原農園）

情報発信を支援する

●スピード感のある情報発信を支える

●活動のイベントや出店情報をアナウンスする「しくみ」があると良い

- ◆イベントの予定を告知する「しくみ」があると集客が増える（まちかどシェア）
- ◆出店するイベント等の予定を発信する「しくみ」があると良い（矢澤水耕農園）

●多様なアプローチを活用した情報発信を支える

●幅広く情報発信できると良い

- ◆幅広い世代に知ってもらうにはホームページや SNS での広報も必要（フレンド神木地域包括支援センター）
- ◆施設対象者に限らず、幅広く活動について周知することが大切（フレンド神木地域包括支援センター）
- ◆情報発信の支援があると良い（ここわサロン）
- ◆はぐるま稗原農園の活動を多くの人に知ってもらうための情報発信を手助けする「しくみ」が必要（はぐるま稗原農園）
- ◆ロビーカフェの活動を地域の人に知ってもらうために、情報発信を支援する「しくみ」があると良い（Café みやまえ）
- ◆宮前区の地域の歴史を伝える映画があると良い（ささらプロダクション）
- ◆他区でも有馬町会の活動が知られるような情報発信ができると良い（有馬町会）

●人との交流を通じて、活動を発信し仲間を増やす機会があると良い

- ◆区民祭などの全区的なイベントで「希望のシナリオ」ブースでの出展を募り、周知する（フレンド神木地域包括支援センター）
- ◆イベント等での周知活動、足を運びたくなる情報発信、講座を開催できると良い（有馬ふるさと公園の活動）
- ◆ささらプロダクションについてさらに多くの人に知ってもらい、サポーターを増やすための、アウトリーチ活動を支援する「しくみ」があると良い（ささらプロダクション）
- ◆農に関するイベントで、応援隊の活動の広報を強化して仲間を増やせると良い（みやまえ農の応援隊）

- ◆近隣のイベントなど農園の外でも出店し、つながりをつくるきっかけがあると良い（はぐるま稗原農園）
- ◆農と区民をつなげるマルシェのようなイベントがあると良い（みやまえ農の応援隊）

●ターゲットを絞った情報発信を支える

●若い人を対象とした活動の伝え方やきっかけづくりが必要

- ◆SNS やゲームを活用して、若い人にも関心を持ってもらうきっかけがあると良い（みやまえ・東部 62 部隊を語り継ぐ会）
- ◆大学や学校と連携して若い世代にも戦争遺跡を伝えられると良い（みやまえ・東部 62 部隊を語り継ぐ会）

●活動内容を楽しく伝えるための工夫やサポートがあると良い

- ◆ストアの活動に参加する楽しさが伝わるように広報を工夫できると良い（高山土曜ストア）
- ◆「包括」の意味をもっと知ってもらうため、公募などして分かりやすくして親しみやすい名前に変える（フレンド神木地域包括支援センター）

●行政による情報発信の支援があると良い

- ◆区役所でもアピールできると良い（NEXCO 中日本）

活動の運営を支える

●人材や収入を安定的に確保するための支援

●関心のある人が運営に気軽に参加でき、メリットもある「しくみ」があると良い

- ◆担い手確保に向けて、お試しでストア運営のボランティアを体験できる「しくみ」があると良い（高山土曜ストア）
- ◆ボランティアとして参加するメリットの「しくみ」があると良い（高山土曜ストア）
- ◆“援農”の実現には、農業に気軽に参加できて、楽しめる「しくみ」が必要
- ◆農に興味がある人が気軽にはぐるま稗原農園の農作業に参加できる「しくみ」があると良い（はぐるま稗原農園）

●有償でスタッフを雇えるような安定した収入を得る「しくみ」があると良い

- ◆駅前スペースの活用を通じて、収入を得る「しくみ」があると良い（ここわサロン）
- ◆スタッフがボランティアベースではなく、少しでも収入を得られる「しくみ」があると良い（ここわサロン）
- ◆現在の寄付者を保ち、さらに増やすことも大切（ここわサロン）
- ◆プレイリーダーの有償化などの「しくみ」があると良い（有馬ふるさと公園の活動）

- ◆野菜の加工販売や流通先の確保など、安定的にお金を稼ぐ「しくみ」を考えることも大切（はぐるま稗原農園）

●これまで活動に関わった人を継続的に巻き込んで運営に関わってもらおう「しくみ」があると良い

- ◆かつてポレポレに遊びに来ていたOB、学生ボランティア、他団体のスタッフと連携したり、参加者に手伝ってもらおうなど、参加の輪を広げる「しくみ」があると良い（有馬ふるさと公園の活動）
- ◆ボランティア同士でアイデアを共有できる「しかけ」があると良い（フレンド神木地域包括支援センター）
- ◆見守りや、工作等をサポートする大人がこども文化センターに増えると良い（有馬こども文化センター）
- ◆これまでの食育講座の参加者から、ボランティアスタッフを募れると良い（北高食育活動）

●負担なく継続するための工夫や新たな運営方法

●利用者がまた参加したくなるような、参加するメリットのある「しかけ」があると良い

- ◆「また行きたい」と思えることが大切（長尾住宅いきいきサロン）
- ◆利用目的（買い物）以外のメリットがある「しくみ」が必要（高山土曜ストア）
- ◆独自のポイント制度などでリピーターを増やす「しくみ」があると良い（高山土曜ストア）

●新たな運営スタイルを取り入れることも大切

- ◆回覧板の仕分けを効率よく分担して負担を減らす「しくみ」があると良い（土橋町内会）
- ◆新たな運営スタイルも取り入れる、柔軟さもあると良い（長尾住宅いきいきサロン）

●技術やITを活用した新たな運営方法を支える「しくみ」があると良い

- ◆移動販売を活用して販売の負担が減ると良い（高山土曜ストア）
- ◆無人でも安心して販売できる「しくみ」があると良い（矢澤水耕農園）
- ◆ITなどの新しい技術を取り入れて、業務を効率化することも大切（宮前平地域包括センター）

●活動の運営について相談

●活動の相談窓口があると良い

- ◆宮前平地域包括支援センターにも、地域活動の立ち上げを支援する窓口があると良い（宮前平地域包括センター）
- ◆農の応援隊と、区内の他の農に関する活動との関わりと、“援農”の実装モデルを改めて考え、整理できると良い（みやまえ農の応援隊）

次世代の担い手を育てる

●参加者や地域を巻き込んで一緒に活動する

●参加者をお客さんにせず、一緒に活動をつくり上げる「しかけ」があると良い

- ◆地域住民と一緒にサロンでやりたいことを考えられる「しかけ」があると良い（長尾住宅いきいきサロン）
- ◆参加者を「お客さん」にせず、サロンに巻き込みながら運営できると良い（長尾住宅いきいきサロン）
- ◆参加者もつくり手として会食会に参加できると良い（ひとりぐらし老人会食会）
- ◆メニューを考えたり一緒に料理をしたり、こども食堂の運営に参加者も関われる「しくみ」があると、運営の負担も減るのでは（アリーノこども食堂）

●地域の人と一緒に活動の運営について考えて、協力できると良い

- ◆宮前平地域包括支援センターの活動内容を地域住民や他の団体と分担できる「しくみ」があると良い（宮前平地域包括センター）
- ◆宮前平地域包括支援センターができる地域アクションを、地域の多様なアクターや専門家と一緒に考える「しかけ」や「しくみ」があると良い（宮前平地域包括センター）
- ◆近隣の幼稚園・保育園と連携して、草とりや種まきを地域と一緒にやる「しくみ」があると良い（みやまえ農の応援隊）
- ◆コレクティブハウスのように、こども食堂の運営を様々なアクターと役割分担する「しくみ」があると良い（みやざきだいこども食堂）
- ◆アリーノ主催のイベントの企画や立案を地域の人でもできると良い（アリーノ）

●担い手の多様化と育成を支える

●次の担い手育成に向けて若い人を巻き込む「しかけ」が必要

- ◆土橋会館を場として提供し、若い世代が気軽に参加できるイベント等を行い、町内会に関わる「しかけ」になると良い（土橋町内会）
- ◆ボランティアスタッフを公募して、特に子育て世代も参加できる「しくみ」をつくる（長尾住宅いきいきサロン）
- ◆担い手確保に向けて、若い人をターゲットに巻き込む「しかけ」が必要（高山土曜ストア）
- ◆若い人にゆずる気持ちも大切（有馬ふるさと公園の活動）
- ◆学生など若い人とタイアップして活動に関わってもらう「しくみ」があると良い（はぐるま稗原農園）
- ◆ロビーカフェを継続的に実施するために、次の担い手につなげることが大切（Café みやまえ）

●シニアがいきいきと活躍できる場所も大切

- ◆退職後の遊びや趣味についてシニア層を巻き込む「しくみ」があると良い（フレンド神木地域包括支援センター）
- ◆シニアも担い手として捉え、高齢化に伴う課題の解決につながると良い（高山土曜ストア）

●地域リーダーの育成やスキルアップを支える「しくみ」があると良い

- ◆包括スタッフ以外の地域のリーダーを育成する「しくみ」があると良い（フレンド神木地域包括支援センター）
- ◆民生委員を対象に個人情報保護法についての勉強会を開いて、地域で福祉に関わる人たちのスキルアップにつなげる（宮前平地域包括センター）
- ◆援農の担い手を育成する「しくみ」があると良い（みやまえ農の応援隊）

宮前らしさを応援する

●「宮前区らしい」取り組みを後押しする「しくみ」があると良い

- ◆宮前ブランドに特化したレストランなどで、販売や活用できる「しかけ」や「しくみ」があると良い（矢澤水耕農園）
- ◆トマトを活用して新しい商品の開発をできると良い（矢澤水耕農園）